

研究所だより

第493号
2025年12月23日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 年の始めの 例(ためし)とて
終(おわり)なき世の めでたさを
松竹たたいて 門(かど)ごとに
祝(いお)う今日こそ 楽しけれ ”

『一月一日』 1893年(明治26年) 日本の唱歌



～冬来たりなば、春遠からじ～

今年も残すところ、あとわずかとなりました。暦の上では、22日は冬至(1年で一番昼が短く、夜が長くなる)。冬の中間点にあたりますが、寒さはこれからが厳しくなり、本格的な冬の到来となります。

高知県内では、インフルエンザ感染状況が県全域で警報値(12/10インフルエンザ警報発令)を超えていきます。県内の学校などでは、休校、学年・学級閉鎖が多数報告されています。皆さまも引き続き手洗い、うがい、人混みを避けるなどの感染防止対策を心がけ、年末年始を過ごしましょう。

～第5回教研推進委員会～

12月4日(木)に第5回教研推進委員会を開催しました。一日・半日教研の総括と来年度の教研活動について協議しましたので、その内容について報告します。

○協議事項

1. 一日教研[8/1(金)]の総括(抜粋)

(1)期日について

・良かった。

(2)内容について

○午前:開会行事・講演

- ・生徒から地域に行動変容をつなげた事例を知り、とても勉強になった。
- ・土佐清水市の良さと課題について考え、これから先を見据えた学習が必要だと感じた。

○午後:部会研修

- ・部会ごとに内容も充実していた。

(3)会場(清水高校)について

- ・高校の会場で、高校の先生の参加もあり良かった。

2. 半日教研[11/5(水)]の総括(抜粋)

(1)期日について

・良かった。

(2)時間構成について

- ・時間的には十分な内容であったが、途中他の研修と重なったことで部会が中断したことは残念であった。

(3)その他(抜粋)

- ・部会ごとに色々な内容の研修を行い、実践交流の内容等を校内でも共有することができた。
- ・来年度の計画も確認できたので、見通しが持てた。
- ・今後の教研の在り方や部会のテーマや課題の焦点化など。

3. 2025年度市教研部会の取組について(各部長から)

(1)探究的な学び部会

教科を絞らず「問い合わせる授業づくり」ー問い合わせについての研究を深めた。めあて・問い合わせに焦点化して深められたのは良かった。“進め方”について来年度もやってみる。高校の先生も参加してくれ活発な話し合いになった。学習の系統性が見えてきた。

(2)ふるさと教育部会

社会科部会の流れを受け継ぎ、ジョン万、ジオをメインに研究を行った。
授業を行わずに実践発表や交流を行った。充実した部会研修になった。

(3)なかまづくり部会

教育相談部会の延長。どういうふうにすればいいのか悩んだ。特別支援担当の先生が多く、特別支援教育を中心とした流れになった。今後進め方を考えていく必要がある。

(4)教育DX部会

情報教育部会の流れを受け継ぎ、中学校の授業や取組を参考にICTの活用、AIの導入などについて研究を行った。AIに頼りすぎるのは良くない。先生のスキルも必要。具体的な指標を作っていくと考えている。

(5)養護部会

部会が残ってありがたい。今年度から栄養についての研究を深めた。講師も多く単年度で異動となることが多いので、単発の研究が増えていくかもしれない。

(6)事務部会

市教研の事務部会では、実務以外のことを学ぶ場としており、本年度は防災メインで研究を行い、新たな事務の在り方を学ぶことができた。今後も市教研で活動できればと思う。

4. 2026年度第76次土佐清水市教育研究集会・市教研について

来年度も「組織、一日、半日、総括」の4教研を開催する。部会についても引き続き6部会で研修をしていくだく。それぞれの教研の日程、講師等については決定に至らなかったので、第6回教研推進委員会で決定する。

5. 市教研部会・研究協力校の提出物について

市教研部会提出物	提出締切	研究協力校提出物	提出締切
*決算書	12月26日(金)	*研究集録原稿	1月30日(金)
*総括教研部会報書	1月23日(金)	*決算書	2月13日(金)
*研究集録原稿	1月30日(金)		

6. 第6回教研推進委員会

日時 2026年2月12日(木) 16:00～

会場 教育センター

- 議題
- ・2025年度市教研活動(総括)について
 - ・2026年度市教研活動について



第3回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)

11月27日(木)に第3回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)を開催しましたので、その内容について報告します。

今回は要望の多かった「発達障害の子へのサポート研修」を企画。講師に高知県立療育福祉センター職員をお招きし、「“みてわかる”支援と環境づくり」と題して、講演をしていただきました。講師のお話と体験活動を通して、有意義な会となりました。

(以下講演内容抜粋)

“みてわかる”支援と環境づくりとは、視覚支援と構造化で、目で見て理解できる情報を手掛けたりにして、まわりの世界を理解しやすくすることである。

1. 自閉症スペクトラム(ASD)の方々の見え方・捉え方は

- (1)細かい部分に注目しやすい
- (2)全体の意味を把握するのは苦手
- (3)自分で見通しをもつことが苦手
- (4)感覚の違い
- (5)みてわかる・具体的なものの理解が得意

2. 「特性に合わせた支援」とは

(1)わかりやすく伝える～視覚支援～

見てわかるように、具体的にどうするのか、言葉だけでなく、見える形で消えないように伝える。

(2)コミュニケーションを助ける～視覚支援～

コミュニケーション=双方向のやりとりを心がけ、要求・拒否などの意思表示、ヘルプなどを伝え、自分から伝えたい気持ちを育てる。大事なポイントは、楽しいこと・好きなことから始める事、コミュニケーションの機会を作ること、そして視覚的補助を使うことである。

3. 環境を整えて理解を助ける～構造化～とは

- (1)いつ、(2)どこで、(3)何を、(4)どのようなやり方で、(5)どうなったら終わりなのか、(6)終わったら、次に何があるのかを、目で見てわかるように伝える。

4. 構造化のポイント

- (1)場所:環境の意味がわかる
- (2)時間:今後の見通しがわかる
- (3)活動の流れや内容:そこで何をするのかがわかる
- (4)見ただけでわかる

5. 支援の基本原則

- ・その人の理解レベルを知り、楽しいと感じることから始める、話し言葉だけよりも、見て確認することで確実に理解できる、視覚的補助を使うと、コミュニケーションしやすくなる。
- ・本人の状態から適切な支援を探っていく、興味関心や理解レベルに合ったツールを考える、改良に改良を重ねていく。ツールは本人の成長とともに変化する。本人の文化を尊重する姿勢が求められる。
- ・その人がありのままで安心して生活し、自立して暮らせるようにするために、視覚支援・構造化は欠かせないものである。

※講義の要所では「感覚・コミュニケーション体験」が取り入れられ、ASDの方々の見え方や捉え方などを体験できる内容となっていた。

(アンケートより)

・その人に合った支援の方法を考えるヒントになりました。視覚支援や環境構成といつても様々な方法があることがよく分かりました。ASDの方だけでなく、普段子どもや保護者との面談時や発達の気になる子への支援等で活用したいと思います。体験もあり分かりやすく、仕事にも生かせる内容でした。ありがとうございました。

・普段困っていることのヒントをたくさんいただきました。ありがとうございました。学校でも明日から実際に生かせそうです。保護者の方とも共有したいなと思います。時間割ボードや流れの分かる教具など使ってみたいと思います。見て分かる支援が本当に良かったです。手作りで色々工夫されているところも、手ざわりや着脱感(マジックテープ)もいいなと思いました。

